

1 学校教育目標
校訓「清(規律と秩序)・明(自由と創造)・和(調和と奉仕)」を根幹とし、特色を生かした学びをとおして、生徒の資質・能力を伸長し可能性を切り拓くことで「志高く、夢の実現に向かって輝く生徒」の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
<p>1 生徒の実態に即した教育実践 生徒の心身の発達段階や特性等を十分考慮しつつ一人一人を大切に、深く関わりながら生徒にとって安全で安心な学びの場となる環境づくりを推進する。</p> <p>①生徒観察、生徒との対話及び個人面談等を充実させる。 ②生徒一人一人をチームで見守り、支援する体制づくりを整備する。 ③スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携する。</p> <p>2 学力の向上 主体的・対話的で深い学びを実現する教育により、学ぶ力を高めるとともに、様々な課題に向き合う姿勢を培う。</p> <p>①創意工夫して魅力的な授業を展開し、わかることの楽しさを実感させる指導に努める。 ②学力定着のために生徒の主体的な学習を促し、基礎基本を徹底する指導に努める。 ③個に応じた指導を充実させ、学ぶことへの「喜び・充実感・達成感」を感じることができる指導に努める。</p> <p>3 豊かな人間性の育成 節度と良識ある日常生活を基盤に、道徳教育及び多様な体験活動等を通して豊かな心や創造性の涵養を目指した教育により道徳性を養う。</p> <p>①生命を大切にす心や他者に寄り添う心を大切に、人権尊重の精神を育む。 ②礼節・規範意識を身に付け、善悪を判断し自らを律する力を養う。 ③学校行事、生徒会活動、部活動等をとおして達成感や充実感を味わうとともに、自他の安全や心身の健康を保持・増進する態度を養う。</p> <p>4 進路実現 特色ある探究活動と充実したキャリア教育を通して視野を広め、自己実現への意識を高め、具体的な進路実現を支える。</p> <p>①探究活動や進路学習において、地域社会、大学及び専門学校等と連携する。 ②生徒自らの進路目標に向かって挑戦する姿勢を育てるとともにそれぞれの個性を生かした進路指導の充実を図る。 ③生徒の進路実現に向けたプロセスをとおして、社会的、職業的自立への基盤となる資質と能力を伸ばす。</p> <p>5 魅力ある学校づくり</p> <p>①スポーツコースでは、豊かなスポーツライフに繋がる活動や熊本保健科学大学等との連携、サイエンス情報科・普通科では主に熊本大学、崇城大学、企業等と連携した先進的な学びを推進する。 ②研究授業の公開、探究活動、生徒会活動や部活動における中高連携を推進する。 ③コミュニティスクールを充実させ、地域連携の進展を図る。 ④熊本西高校のPRに努め、オープンスクール、教育活動の公開、ホームページ・学校Instagram・西高新聞等で発信し、生徒の活躍を広く周知する。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	広報活動の充実	魅力発信と生徒募集の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 学校パンフレットのデザイン刷新を図る。 広報誌(西風、西高新聞)の内容検討を行う。 HPのデザイン等の見直しと改善を行う。 中学生向け西高紹介映像を作成する。 HPへの掲載内容を検討する。 HPへの記事更新の回数を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門家等の意見を聴取しつつ、パンフレットデザイン、レイアウト、掲載写真等を刷新したパンフレットを作成する。 西風(PTA新聞)、西高新聞(学校新聞)の内容等の検討を行い、改善できる点については早期に改善する。 HP作成の専門家等の助言を受けつつHPのデザイン等の変更を検討する。 映像作成の専門家等と連携し中学生向け紹介映像を作成する。 学校の様子を週に一度以上の頻度でHPに掲載する。 中学生が本校での生活に関心を持つような内容の記事を掲載する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> 専門業者と連携した新パンフレット、学校紹介映像を作成できた。 前期(特色)選抜志願者が大幅に増加した。 HPのデザイン向上が図れた。 HP更新頻度を増加できた。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> パンフレットや学校紹介VTRに掲載する写真の撮影時期が遅れてしまった点。 原稿等の提出が遅くなってしまった点。
	地域とつながる学校づくり	異校種間連携	<ul style="list-style-type: none"> 異校種間で連携した取組みを企画する。 参加した生徒の進路意識や自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学等への体験入学企画「NAIS(西高アカデミックインターンシップ)」事業、大学教授等を招いた授業の実施など大学と連携した事業を実施する。 総合的な探究の時間における中高連携事業を実施する。 夏休みを活用した小学生とのふれあい教室(夏休みの宿題支援・英語カルタ)を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> 大学や専門学校と連携を図ること、生徒の視野を広げることができた。 ふれあい教室を通して、進路を考えるための、貴重な経験を積むことができた。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> NAIS参加生徒の目的意識向上に向けた事前指導時間の確保。
			地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題の解決に主眼を置いた探究活動を充実させる。 地域貢献活動やボランティアに参加する生徒を増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間における地域連携事業を推進、成果報告を行う。 地域の中学校等との部活動交流や各種団体等とのボランティア交流を行う。 地域探究の活動を育西会、地域住民、西区役所、中学生等に紹介する。 ボランティア企画、地域貢献活動 	B

			機会について生徒に情報提供し、参加を推奨する。		太鼓部、eスポーツ部などを中心に地域イベント等に積極的に参加できた。 ◆課題 ・学校や地域サイドが企画したイベント等に生徒が参加することが多く、主体的な意欲が基となった参加企画が少なかった点。	
業務改善・働き方改革	ICT等を活用した業務改革	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性が増した Google を有効活用した業務効率化を行う。 ・一人一台端末 (Chrombook) を職員全体で活用、業務効率化に取り組む。 ・保護者とのコミュニケーションツールとして学校保護者間連絡システム(「すぐーる」)を有効活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議等の資料をペーパーレス化、Chrombook、Google 共有ドライブを活用し資源節約、印刷負担軽減を行う。 ・Google の機能に関する職員間の情報共有を図り更なる業務の効率化を図る。 ・欠席連絡等に関しては「すぐーる」の活用を徹底する。 ・勤務時間外の連絡手段として「すぐーる」活用について研究を進める。 ・初期設定や閲覧方法等について、よりわかりやすい資料を作成し保護者等に周知する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・会議資料のペーパーレス化は年間を通して実現できた。 ・Google 機能に関する職員の理解も深まった。 ◆課題 ・Google アカウントに関連する保護者からの問い合わせが多く寄せられ、多くは個人アカウントでログインした結果によるものであり、周知に関する工夫が必要。 	
	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・業務負担の平準化と職員の働き方改革に係る意識の変容を図る。 ・年次有給休暇取得を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校閉庁日及び定時退勤デーを設定する。 ・安全衛生委員会において働き方改革について協議し、必要に応じて教職員への面談等を行う。 ・主任主事により各分掌組織毎に業務分担が適切に行われるようにする。 ・業務負担が偏っている場合は、他の部員ができる部分を洗い出し、業務の平準化を進める。 ・年次有給休暇の取得が増加するよう管理職による呼びかけなどに更に力を入れる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・学校閉庁日は5日間設けた。定時退勤デーは定期考査期間中に加え11月より毎週水曜日を定時退勤デーに設定できた。職員は概ね定時で退勤できた。 ・安全衛生委員会では、各分掌部や各学年の代表が参加し、業務の平準化や各部が抱えている課題を共有できた。 ・年次有給休暇の取得率は年々高まっている。 ◆課題 ・業務平準化について更に検討を進め、働き方改革を加速させる必要がある。 ・時間外勤務時間については改善傾向であるが、下げ止まりの状況。働き方改革に係る意識の向上と方策の検討を更に図っていくことが課題。 	
学力向上	わかる授業魅力ある授業への転換	授業による学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が授業に集中して参加できる環境を構築するとともに学習習慣が定着するよう工夫する。 ・授業や学習に関する教科間の連携と学習内容の定着度の共通理解を深める。 ・教職員の授業力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上のため、研究授業旬間を設定し、他の教職員の授業を参観しやすい環境を整備する。 ・教科間で学習習慣の定着や基礎的・基本的な学力向上に係る取組の共有を図る。 ・スーパーティーチャーを招聘し、授業参観及び指導・助言等を受ける機会を設定する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・スーパーティーチャーを招聘し、授業参観してもらい、指導助言を受ける機会を設定できた。 ・研究授業旬間を実施。自身の教科に加え、他教科の授業も参観するようになったことで見識を深めることができた。 ◆課題 ・複数教科が連携した教科横断的な学びの実現が課題。
		ICT等を活用した授業改革	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を教育活動の中で日常的に活用する。 [指標：くまもとICT指数] Class-KI30 (授業時間の30%の活用) 及び Unit-KI50 (単元時数の50%の活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の特性に応じ端末の利活用目標を設ける。 ・授業での活用場面等を情報共有する機会を設定する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・教師の Unit-KI は平均 67.7 であった。 ◆課題 ・生徒の Unit-KI は平均 28.2 であった。生徒が端末を効果的に活用する機会の設定に課題が残った。 ・県が実施する調査の中で ICT 指数を調査したため、今年度は Class-KI は調査していない。次年度は学校独自で調査し、現状把握と端末活用促進に繋げたい。
計画的な学習指導の充実	計画的な学習指導と適正な評価	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価を意識し、単元テストや定期考査の出題内容を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに、各教科内で実践事例を報告し、2学期には、教科の枠を超えて情報交換できる場を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・学期末の成績算出時や授業研究旬間などを通して、教科の枠を超えた情報交換ができた。 ・デジタル採点が一般化し、観点別評価がより充実した。 ◆課題 	

						・デジタル採点を活用した評価に関する更なる理解。
キャリア教育 (進路指導)	キャリア教育の充実	自己の在り方生き方を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が夢や希望を持てるよう支援する。 ・アカデミックインターンシップ(N A I S)及び職業インターンシップ等を通して視野を広げる。 ・総合的な探究の時間において主体的に課題を設定し、成果や研究結果を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で活躍する人による講演や進路ガイダンスを実施する。 ・体験入学等については、事前・事後指導の充実により生徒の参加意識を高める。 ・生徒の適性を考慮したN A I S及びインターンシップを実施する。 ・受入事業所を幅広く開拓する。 ・地域社会や大学との連携を深め、生徒の興味・関心に応じた探究活動を行える環境整備を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・体験入学やインターンシップは、職種や勤労感、参加に対する目的意識の向上のための事前指導を充実させることができた。 ・インターンシップでは、生徒の希望を元に受入事業所を開拓することができた。 ・大学教授を招いた探究活動に関する職員研修を実施できた。 ◆課題 ・インターンシップにおける更なる事業所開拓が課題。
		ポートフォリオの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動歴等が着実に積み上げられるようにする ・生徒が主体的な進路選択と多様な入試への対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜適切に生徒にポートフォリオを積み上げることの重要性について指導し、生徒が記録を残せるように支援する。 ・年内入試を始めとした多様な入試方法等の種類などについて生徒が深く理解できる機会を設定する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・道標(進路のしおり)を利用して進路別説明会等や進路学習週間を設定し、生徒は多様な入試への理解を深めることができた。 ・生徒が自身の学習成績を振り返る取組を取り入れ進路や学習への意識が高まった。 ◆課題 ・最新の進路情報を効果的に提示及び指導していけるよう資料の選定や周知方法等についての工夫・改善が必要。
	一人一人の進路目標達成	進路実績	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度を上回る進路実績を実現する(進学100%決定・国公立大学15名・公務員指導の充実・就職100%決定)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒との計画的な面談機会を設定し進路指導の充実を図る。 ・丁寧な個別添削指導・小論文指導、面接試験指導を実施する。 ・学力検討会を通して、教職員の共通理解を深める。 ・各学年の進路研修会を充実させるとともに異学年の研修会への参加を呼びかける。 ・北九州予備校と連携した学力向上事業を実施する。 ・スタディサプリを活用した学力向上事業を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・全職員で個別指導に力を入れることができ多様な入試制度に対応できた。 ・1、2年次の学力を検討する機会を増やし、指導に向けて共通理解を深めることができた。 ・特進クラスにおいて、スタディサプリの活用により、個に対応した学習支援ができた。 ◆課題 ・学力向上のため継続的な指導が実施できるよう年間進路指導計画の更なる周知が必要。 ・模試結果を活用した更なる学習指導の充実。
生徒指導	交通安全	交通事故・マナー違反をなくす	<ul style="list-style-type: none"> ・重傷事故ゼロを含め、交通事故及びルール違反(並進、ながらスマホ等)の減少に努める。 ・万一の事故時の対応や被害の最小化(ヘルメット着用)に繋がる意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月11日を「交通安全の日」として交通安全指導の充実を行う。 ・年3回、警察・育西会・交通委員で交通指導を行う。 ・交通安全集会や交通委員の取組、広報等を通して、ヘルメット着用の重要性を呼び掛ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・通学時のヘルメット着用義務化1年目として様々な機会呼びかけを行った。 ◆課題 ・交通事故件数は昨年度同時期で微増だが事故を起こした生徒の大半がヘルメットを着用していない。
	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守 ・爽やかな挨拶 ・制服の正しい着こなし 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の厳守や挨拶励行、整容面の共通認識について、生徒の主体的な取組を通して、基本的な生活習慣の確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会・職員により登校指導や挨拶運動を行う。 ・一斉形式の服装頭髪指導を見直し、生徒会と連携した取組を充実させ、不備者を減らす。 ・校則の見直し(改善・簡素化)を計画的に進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・「チーム西高キャンペーン」に生徒・職員一体となって取り組み、時間や挨拶において向上が見られた。 ◆課題 ・一部の生徒の身だしなみが乱れており、改善に向けてのイエローカード指導が不徹底である。
	主体的・能動的言動の育成	各行事における生徒の自主性の育成、高い志しと目標を持った高校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体となった行事の企画と運営を進める。生徒の自主的なアイデアと実行力を涵養する。 ・生徒が目標とやりがいを持ち、豊かな心を持って学校生活を送れるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした生徒主体の取組に移行するため、体育大会や創立記念祭、クラスマッチ後のアンケートを有効活用する。 ・生徒が積極的に活動できるよう丁寧な声掛けや励ましを行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・学校評価アンケートの結果(生徒回答分)を見ると、生徒会に関連する質問項目2点で、過去3年で最も数値が高かった。 ◆課題 ・生徒会執行部の更なるイニシアティブと全校生徒の当事者意識の向上に向けた取組をいかにしていくかが課題。
	美化、環境意識の高揚	掃除への意識高揚、環境ISO	<ul style="list-style-type: none"> ・週3日の掃除を徹底し、校内美化に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除の担当箇所や割り振りを常に見直し、掃除指導の徹底を図 		<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 ・環境美化委員会による用具の補

		の取組推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と共に「学校版環境ISO」の取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> （美化コンクールの改善と教育効果を高める工夫）。 生徒会と連携し、節電（移動教室時の消灯）や節水を進める。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 充や美化コンクールの改善に取り組んだ。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート結果から、掃除について生徒と職員の評価や取組に関して温度差が生じており、改善の余地がある。
人権教育の推進	職員研修の充実	人権教育の基本的認識の確立とその共有	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修を充実させる。特に特別支援教育及び生徒理解研修を拡充し、生徒理解に基づいた人権意識の確立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権や命の問題についての知識や考察を深める職員研修の充実を図る。 合理的配慮についての研修を行い、個別の配慮について周知する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> 生徒理解研修やスクールカウンセラーによる職員研修を通して、発達特性や家庭環境、心理的背景を踏まえた生徒理解の重要性について職員間で共通認識を深めることができた。 個別の支援計画に基づき、SC・SSWと連携した支援体制を構築し、合理的配慮や個別の対応について具体的な事例を共有することで、生徒一人一人の状況に応じた関わりが進んだ。 取組を通して、生徒理解に根差した人権意識の醸成につながり、職員の人権教育に対する意識向上が図られた。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> 研修内容や支援事例の共有が一部の職員にとどまり、校内全体での理解の定着には差が見られた。また、日常業務の多忙さから、研修で得た知識や視点を継続的に実践へと結び付ける仕組みが十分とは言えない面もあった。 研修内容を校内で体系的に整理・共有するとともに、学年・分掌を越えた情報共有の機会を確保し、生徒理解に基づく人権教育を学校全体として継続的に推進していく必要がある
	命を大切に する心を育む指導	自尊心及び他者を尊重する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 命を大切に する心の育成の充実を図る。 自他ともに大切に する心の育成を図る。 生徒および職員の心身のストレス軽減を図る。 担任の先生が専門家から直接アドバイスを 受ける機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」とともに総合的な探究の時間や各行事を充実させ、自尊心及び自己肯定感を高める。 「SOSの出し方に関する教育」を各学年ともに実施する。 ソーシャルスキルトレーニング・アサーションスキルを充実させ、コミュニケーション能力を育成する。 ストレスマネジメントやリラクゼーション等の知識や技能についてカウンセリングを通じて啓発する。 SCによるアサーション及びいじめ防止の授業を実施する。 西高コミュニケーションサークル（NCC）を実施し、ソーシャルスキルの向上を図る。 担任のコンサルテーションを行い、配慮を要する生徒への支援力向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> 各学年でソーシャルスキルトレーニング（SST）授業を年2回実施。対人関係における基本的なコミュニケーションスキルや自己表現の重要性について生徒が学ぶ機会を確保できた。 年度当初にスクールカウンセラー（SC）による「SOSの出し方」に関する講話を実施。困ったときに助けを求めることの大切さや相談行動への心理的ハードルを下げる取組を行うことができた。 西高コミュニケーションサークル（NCC）の取組により、参加生徒のソーシャルスキル向上や安心して自己表現できる場の確保が図られた。 担任へのコンサルテーションを実施し、専門家から直接助言を受けることで、配慮を要する生徒への理解や支援の幅が広がった。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> SSTやアサーション教育の学びを日常の学級経営や学校生活全体に十分に定着させるまでには至っておらず、継続的・段階的な取組が必要である。 「SOSの出し方」に関する理解は進んだが、実際の相談行動につなげるためには、日常的な声かけや相談体制のさらなる周知が求められる。 心身のストレス軽減に関する取組について、全生徒が主体的に活用できているとは言えず、対

					<p>象や内容に偏りが生じる場面も見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任へのコンサルテーションは有効であった一方、時間確保や情報共有の面で課題があり、組織的な支援体制としての整備が今後の課題である。 ・行事や授業を通じた自己肯定感・自尊感情の育成について、成果を可視化する評価方法の検討が必要である。
いじめの防止等	人権意識の育成	いじめをしない、許さない心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ解消率100% ・アンケート等を通じて、いじめの早期発見・早期解消を図る。 ・外部専門家を含めたケース会議を行い、生徒支援に当たる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針に従い、未然防止および早期対応を着実にを行う。 ・本校独自の「心のアンケート」を実施し、結果を活用する。 ・SC、SSW、医療機関等との積極的な連携と情報交換を図り、職員・保護者の生徒理解と支援の充実を図る。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止基本方針に基づき、いじめが疑われる事案については、学年団を中心とした聴き取りや対応を行い、未然防止および早期対応に努めた。 ・本校独自の「心のアンケート」を定期的実施し、生徒の不安や人間関係の変化を把握する手段として活用することができた。 ・アンケート結果をもとに、必要に応じて面談や支援につなげるなど、改善に向けた取組を行うことができた。 ・スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、医療機関等の外部専門家を含めたケース会議を実施し、多角的な視点から生徒理解と支援の充実を図ることができた。 ・外部専門家との連携により、職員および保護者への助言や情報共有が進み、個別の生徒支援に活かすことができた。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめが疑われる事案への初期対応について、担任や学年による対応の差が生じないよう、いじめ防止基本方針の確認と対応手順の校内共有を定期的に行う。 ・学年団での聴き取りや対応の進め方について共通理解を図るため、具体的事例を用いた研修や情報共有の機会を設け、組織的な対応力の向上を図る。 ・2学期に課題が集中したことを踏まえ、1学期からの生徒観察や人間関係への働きかけを重視し、トラブルが深刻化する前段階での生徒指導を強化する。 ・「心のアンケート」の結果をより迅速かつ継続的な支援につなげるため、対応の流れや役割分担を明確にし、校内でのフォロー体制を整備する。 ・SC・SSW等の外部専門家との連携を引き続き推進し、ケース会議を通じて得られた知見を学年団や関係職員間で共有し、学校全体の生徒支援力の底上げを図る。 ・いじめの未然防止の観点から、日常的な生徒理解や小さな変化への気づきについて、全職員での意識統一と実践の定着を目指す。

地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	地域・保護者・関係機関等との連携	学校運営協議会の活用による地域連携の強化及び円滑化	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を開催し、魅力化や学校活性化に向けた取り組み及び地域防災体制について検討する。 学校運営協議会を通して生徒募集の在り方等について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を年3回開催する。 2回目の学校運営協議会では中高大の連携及び地域防災体制について協議する。 学校運営協議会にて生徒募集の在り方について委員に御意見等を聞く。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会は計画通り実施でき、委員から助言等を得ることができた。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> 協議の時間が限られているため、更に踏み込んだ議論の実現が難しい点
特色ある教育	サイエンス情報科の充実	研究活動の充実 志望者の増加	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携による実習などサイエンス情報科の活動を着実に実施する。 発表会、コンテスト等への出場機会を増やす。 特色的な教育活動を積極的に中学校や地域へ発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学との事前協議を綿密に行うなど活動の充実を図り、外部への積極的な情報発信を行う。 各課題研究班の進捗状況を適時確認し、必要に応じて各発表会やコンテスト等への出場を促す。 学校説明会等において地域へのサイエンス情報科の魅力を理科、数学、情報の担当者と連携し、より効果的な発信を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> 高大連携による実習は、日程調整の難しさがあったが、滞りなく実施することができた。 1年生では、課題研究を円滑に進めるため、理科、数学、情報の各分野でミニ講座を行った。2年生では、校内でプレゼン発表を行い、12月に開催された熊本スーパーハイスクール(KSH)全体発表会ではポスター発表を行った。 学校説明会の資料について、各科目の実習が1年間の流れで分かるよう改良した。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> 昨年度、課題研究班の数班が科学展に出品したが、今年度は出品した班はなかった。来年度は、1班でも出品したい。
	体育・スポーツコースの充実	専攻授業・実習の充実 志望者の増加	<ul style="list-style-type: none"> スポーツを「する・みる・しる・ささえる・しらべる」という観点から自己研鑽に努め、将来、指導的役割を担う人材の育成を目指す。 スポーツ活動を通して「知育」「徳育」「体育」のバランスのとれた教育活動を実践し、志望者数の増加を目指す。 競技力向上に努め、全国大会上位進出を目標に精進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 多角的視点を持ち、スポーツを科学的見地から分析するという取組を大学と連携し、探究活動を行う。 主体的な学びを促進する。 小中学校や地域スポーツクラブと交流し、大会役員ボランティア等に積極的に参画する。 志望者数の増加に向け、スポーツコースの魅力発信のため広報活動を充実する。 高い競技力を有し国内のみならず世界で活躍できる人材の育成に尽力する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> 運動を科学的な見地から捉えられ、トレーニングやコンディショニング、ケガの予防、スポーツ医学について様々な視点で考える資質の向上につながった。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> 熊本保健科学大学との連携授業で得た主体的な学びを通して得たものを校内や地域(小、中学生など)へ発表する機会を設けたい。
	普通科の充実	取組の質的転換	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末を活用した主体的で対話的で深い学びの充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な学習成果を融合させて、新たな視点や取組を生み出す機会を増やす。 総合的な探究の時間等を活用し、文章作成やプレゼンテーションなど、情報活用能力を生徒に身に付けさせ、発信力を高める。 主体的で対話的で深い学びを意識した一人一台端末利活用の事例を校外から収集し、各教科から報告し、情報を共有することで、自分の教科の授業改善を進める。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間では、探究活動についての各プログラムを通して、情報発信に必要な様々な力を高めることができた。 一部の教科や総探では主体的で対話的で深い学びを意識した端末の利活用が見られた。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> 端末の主体的な活用はできているが、対話的な学びになっていないことが多かった。 可能であれば、次年度は教務部と連携して「一人一台端末を活用した、主体的で対話的で深い学び」をテーマとした研究授業を実施したい。事例等の情報提供も積極的に行いたい。
感染症対策	感染症への対策	感染症拡大防止対策	<ul style="list-style-type: none"> 校内体制の充実を図り、日常的な感染症予防・拡大防止対策の指導を適切に進める。 感染症予防の対策を行うと共に、健康を保持・増進する態度を養い、自己管理できる生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内の感染症拡大傾向を初期段階で把握するための丁寧な健康観察等と、感染症拡大傾向の把握や必要時に学級閉鎖等の対策を行う。 感染症拡大の状況に応じて、ICTを活用した教育活動を進め、学習の遅れがないよう支援する。 生徒会や保健委員会などの活動を通して、生徒による健康を保持・増進する態度を養い、自己管理能力を高める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ◆成果 <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザ感染拡大傾向を初期段階で把握・対策し、警報レベルの時期に近隣校で学級や学年閉鎖等の報告はあったが、校内での学級閉鎖等が必要な流行はない。 ◆課題 <ul style="list-style-type: none"> 予防対策を複数回周知したが、意識の低い一部生徒が不用な外出で小集団の感染報告をうけた。知識を行動化出来るスキル向上が必要である。

5 総合評価

(1) 教育目標

校訓「清（規律と秩序）・明（自由と創造）・和（調和と奉仕）」を根幹とし、特色を生かした学びをとおして、生徒の資質・能力を伸長し可能性を切り拓くことで「志高く、夢の実現に向かって輝く生徒」の育成を目指し『チーム熊本西！多様性を集結させた活気あふれる学校づくり』の教育スローガンのもと、全職員が一丸となり、丁寧かつ粘り強い指導に努めてきた。

西高アカデミックインターンシップや体育大会・創立記念祭・チャレンジウォークなど、生徒の可能性を伸ばすための各種取組は、生徒会を中心に職員・育西会（保護者）・西峰会（同窓会）・外部機関等が連携し、充実したものとなった。また、県指定イノベーションハイスクールや総合的な探究の時間等を中心とした探究活動等の取組において、地域や地域社会を支えている方々との直接的な交流を活性化させたことで地域社会や他者とのつながり方を身に付けた生徒が増え、主体性を持って行動することの重要性を生徒が学ぶことができた。各自の進路志望選択にも繋がっている。

(2) 教育実践の重点と方向

「1 生徒の実態に即した教育実践」については、生徒アンケートにおいて「私は西高に入学してよかった」「私は目標を持って学校生活を送っている」などの質問項目に対し、過去3年間（全体）で最も高い評価結果となった。一方で、保護者アンケートにおいては「子どもを西高に入学させて良かった」の質問項目が過去3年間で最も低くなっており、課題として捉えなければならない。

「2 学力の向上」については、生徒アンケートにおいて「西高は授業改善に取り組んでいる」「西高の先生は、授業の教え方や説明がわかりやすい」「私は積極的に授業に参加している」などの質問項目に対し、過去3年間（全体）で最も高い結果となっており、今後も生徒の意欲が低下しないよう研修に努めていかなければならない。

「3 豊かな人間性の育成」については、「生徒指導（挨拶、時間を守る、服装等）は適切である」「西高は学校行事において生徒が主体性を持って取り組んでいる」の項目について、生徒アンケートの評価結果が過去3年間でも最も高い結果となった。職員アンケートの結果との違いが生じているが、生徒が評価していることを前向きに捉え、今後も粘り強い指導を重ねていきたい。

「4 進路実現」については、生徒アンケートにおいて「西高の先生は、進路目標達成に向けて十分な指導を行っている」の質問項目がここ3年間横ばいとなっている。一方で職員アンケートにおける「私は、授業・行事等を通して、生徒の進路意識を高めるよう努めている」の項目は前年度を上回っており、職員の思いが生徒にしっかりと届くよう工夫しなければならない。

「5 魅力ある学校づくり」については、生徒アンケート「私は、学級活動や生徒会主催の行事等について積極的に関わっている」の質問項目において、過去3年間で最も高い評価結果となっており、一定の成果があったものと考えている。

(3) 自己評価総括表

「学校経営」では、「広報活動の充実」「地域とつながる学校づくり」を目指し、地域や異校種との連携、本校からの魅力発信の工夫改善を進め、オープンスクールや中学校説明会等の生徒募集に係る取組も組織的に行うことができた。専門業者の助言等を得ながら作成したパンフレットや学校紹介映像は好評でオープンスクール参加者の満足度を高めることにつながった。西高インスタグラムの閲覧回数は140万を超えている状況であった。前期（特色）選抜志願者が前年度から大幅に増加した点については一定の成果があったものと考えている。一方で後期（一般）選抜については、課題が残る結果となっており、更なる充実が必要と思われる。

業務改善のうち「働き方改革の推進」については、教職員の勤務時間は明らかに縮減しており、今後も継続した取り組みを推進していきたい。

「学力向上」では、授業においてICTを活用する点については定着しつつあるが「主体的で対話的で深い学び」を実現するには引き続き研究を深めていくことが求められる。また、県指定のイノベーションハイスクールとして、教科横断的な視点から生徒の基礎的・基本的な学力の定着や向上を目指しているが、他教科と連携する取組に至っていない現状があり、学校全体として工夫していく必要がある。

「生徒指導」においては、時間を守ることと挨拶をきちんとできるようにすることを目指した「チーム西高キャンペーン」に全職員で取り組むことができた。一定の成果があったことから次年度以降も職員一丸となって取り組んで参りたい。

「キャリア教育」に係る取組については、探究活動やNAISといった本校の特徴的な取り組みが評価されている一方で、進路実績の向上につながっているかについての更なる検証が必要となっている。これまでの取組を検証し、3年後やその先を見据えた進路指導を更に充実させる必要がある。

「いじめの防止」も含めた生徒間の望ましい人間関係の構築については、ケースの複雑化や多様化が見られ、未然防止と早期対応できる組織づくり及び教職員の資質向上に向けた研修の強化が必要である。

「特色ある教育」では、サイエンス情報科やスポーツコースにおいて、新たな試みにも挑戦することができている。前期（特色）選抜では、サイエンス情報科、スポーツコースともに志願者が大幅に増加したことから魅力ある取組を更に充実させる。

普通科においては、ICTの活用や探究活動を中心にして生徒の発信力を高め、様々な学習を融合させて新たな視点や取組を生み出す機会や場面を増やすよう努めた。今後はこれらの各種取組を生徒の進路実現等に効果的に結びつけられるよう関連性や順序性について研究する必要がある。

6 次年度への課題・改善方策

自己評価結果を「C」とした以下の項目についての課題と改善方策について

(1) 美化、環境意識の高揚

◎課題

- ・美化意識や環境への配慮について意識が低い生徒や行動が伴わない生徒が少なからず存在している。
- ・環境美化を自分事として考える事ができずに他人事として捉えている生徒が多い印象を受ける。
- ・学校評価アンケート結果からも掃除の取組に関する生徒と職員間の評価にズレが生じている。

◎改善の方策

- ・掃除箇所や担当の割り振りを常に見直し、掃除指導の徹底を図る。
- ・学期に一度の美化コンクールを通じた啓発活動に力を入れる。
- ・生徒会と連携した節電（移動教室時の消灯）や節水の啓発運動を更に進める。

(2) 普通科の充実

◎課題

- ・端末の主体的な活用はある程度できているが、対話的な学びになっていないことが多かった。

◎改善の方策

- ・次年度は「一人一台端末を利活用した、主体的で対話的で深い学び」をテーマとした研究授業を実施したい。先進的な先行事例等の情報提供も積極的に行いたい。